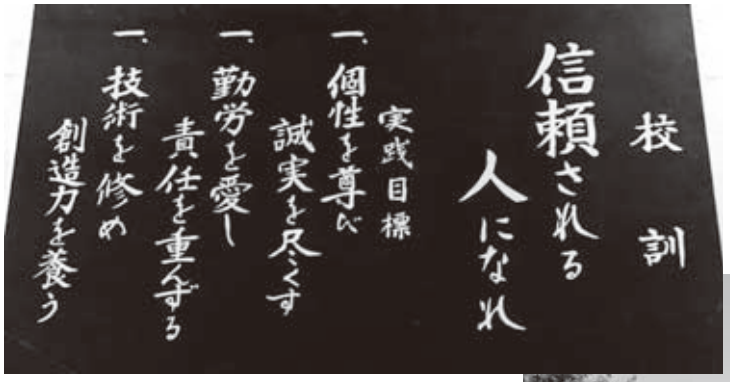
校舎・校訓



校　訓

朝日子の館

校　旗

旭工の一年を写真で振り返る

旭工の一年（全日制）

入学式

宿泊
研修

学校祭

オリンピック

体育大会

マラソン大会

見学旅行

スキー

卒業式

旭工の一年（定時制）

祝 北海道旭川工業高等学校入学式

旭川工業高等学校 定時制 建築科

工業高等学校 定時制 建築科
電気科

旭川工業高等学校 定時

2002年　甲子園出場

2005年　甲子園出場

旭工の歴史

旭川工業高等学校の沿革

年　月　日	記　　事

昭和１６年

2:25　文部省告示第163号により北海道庁立旭川工業学校設立認可

2:25　北海道庁告示により建築科、土木科、応用化学科の3科設置・国民学校高等科卒入学資格とする修業年限3ヶ年と決定

2:28　北海道庁立小樽工業学校長　窪田長松氏・北海道庁立旭川中学校長元木省吾氏開校事務取扱発令　庁立旭川中学校に開校事務所開設

3:31　初代校長　代島元一氏　発令（北海道庁立函館工業学校教諭）

4:8　庁立旭川中学校に於て第1回入学志願者選抜考査を実施

4:21　北海道庁立旭川工業学校開校式並びに第1回入学式を挙行仮校舎旭川市養正国民学校（現旭川市立明星中所在地）職員構成校長以下本務員8名、兼務者3名計11名

6:1　校章制定（図案者、応用化学科１年田村裕久氏、公募）校章の項参照

昭和１７年

8:10　後援会設立初代会長旭川商工会議所会頭　堀末治氏就任　ＰＴＡの項参照

10:21　校旗制定（上川神社で入魂式引き続き北海道護国神社に参拝）校旗の項参照

10:25　現在地に本校校舎の一部458坪雨天体操場及び付属建物157坪、建築科実習室、土木科製図室標本室及び廊下150坪、応用化学科実習室、薬品室、器具室、天秤室、通気室、生徒便所等完成

12:10　新校舎へ移転

昭和１８年

9:8　学校林を後援会が購入（上川郡鷹栖村近文の原野山林26町4反畝8）歩学林の項参照

12:10　校歌制定（歌詞　安保徳輔、作曲　佐藤朋吉氏）校歌の項参照

12:23　本校第1回卒業式挙行　卒業者数の項参照

12:23　同窓会発会式挙行　会長母校校長　代島元一氏推薦　同窓会の項参照

昭和１９年

8:24　第2代校長　田口操敏氏　発令（北海道庁立函館工業高等学校教諭）

昭和２２年

3:19　校地14.137坪旭川市より寄付取得（32年測量14.430坪）

6:10　後援会、父母教師会と改称　新会長　清水三俊氏公選就任

昭和２３年

0:0　応援歌制定　（制定年月日昭和23年夏頃）　作詞 全校生徒からの募集作品に幾度か修正した合作作曲　坂田公也氏（当時建築科3年生）

4:1　北海道庁立旭川第二工業高校に併置の旭川市立工業高校（夜間）は第二工業高校が商業高等学校転換されたため旭川市立工業高等学校と改称され本校に移転併置

4:1　北海道立旭川工業高等学校と改称、（新学制公布施行による）工業化学課程、建築過程、土木課程の3課程 修学年限3年の職業教育学校となる。

4:1　第二工業学校の商業高等学校への転換により同校在学者で引き続き工業を希望する者を吸収したため建築科2年生、土木科2年生が各2学級となり計11学級となる

昭和２４年

3:31　併置旭川市立工業高等学校道立移管され本校の夜間課程となる

4:1　北海道旭川商業高等学校併置中学校卒業者（入学時は北海道庁立旭川第二工業学校）で工業を志望する者を吸収したため生徒数が増加学級編成は工業化学科建築科各学年1学級、土木科各学年2学級計12学級となる

6:1　母校教師会昼間部・夜間部合併、夜間部会長　坂東良一氏本会副会長就任

6:18　校舎増築完成並びに本校高等学校への転換を記念して記念式典挙行

11:1　機械科、電気科、木材工芸科等の増設に関する具体的第１回会合がＰＴＡ役員で開催

11:11　第３代校長　鍛冶二郎氏 発令　（北海道函館工業高等学校教諭）

12:22　校長住宅1戸（1号）新築　公宅の項参照

昭和２５年

3:11　同窓会、夜間部同窓会と合併　会長　山下　弘氏就任

3:31　定時制通信教育振興法により夜間課程は定時制課程と改称

4:1　北海道旭川工業高等学校と改称

4:1　土木科1学級減

4:10　校友会は発展解消し生徒会として新発足

6:27　校訓・本校教育目標・教育方針等制定　校訓の項参照

○　校訓　信頼される人になれ

昭和２６年

4:1　電気科2学級新設、土木科第2学年1学級減

9:1　校歌歌詞改詞　作詞者 安保徳輔氏 校歌の項参照

9:9　本校創立10周年記念大運動会開催

9:19　本校創立10周年記念関係物故者追弔慰霊祭を開催

9:20　本校創立10周年記念式典挙行

9:22　創立10周年記念工高祭開催（3日間）

昭和２８年

3:30　午後9時50分頃理科準備室付近より出火損害教室3及び付属廊下等全焼 97.25 坪半焼 34 坪損害額合計約 500 万

9:25　校舎復旧工事着工

昭和２９年

5:20　復旧工事完成

昭和３１年

4:16　第4代校長　佐藤憲士氏 発令（北海道苫小牧工業高等学校長）

4:25　機械科実習室建設期成会結成

5:16　第3種電気主任技術者一次試験免除認可（通産省告示第147号）

11:19　定時制生徒給食（捕食）開始（クラブハウス改修階下に配膳及び食堂設置）

12:6　機械設備整備　（旋盤形消盤手消盤各1台）建設期成会事業

昭和３２年

2:28　校訓・教育方針・実践目標改定、校訓＝信頼される人になれ校訓の項参照

昭和３３年

4:1　自動車科1学級新設　工業化学科、建築科、土木科、電気科、機械科、自動車科6科となる（北海道教育委員会規則第6号）

昭和３４年

2:26　父母教師会臨時総会で校舎拡充特別会計決定（普通科その他7室5年計画700万円計上）

4:25　自動車科充実期成会結成

12:1　定時制課程完全給食開始

昭和３５年

4:1　機械科1学級増設

10:21　創立20周年記念行事協賛会設立準備委員会発足

11:1　第5代校長　成田午次郎氏　発令（北海道苫小牧工業高等学校教諭）

12:1　本校自動車科が普通小型自動車分解整備事業の認証工場に指定（道路運送車両法第18条の規定）

12:12　創立20周年記念行事協賛会設立

昭和３６年

4:1　電子工業科１学級新設電気科１学級減、定時制課程電気科１学級新設（北海道教育委員会規則号）

9:21　創立20周年記念式典挙行

昭和３７年

8:10　図書館・同窓会館建設委員会設立

昭和３８年

7:13　同窓会館・図書館落成式挙行、自動車科充実期成会解散

昭和４０年

9:2　北海道高等学校工業教育研究集会2日間にわたり本校会場で開催

昭和４１年

12:7　自動車整備士技能検定規則第6条の二により第一種養成施設として指定

昭和４２年

4:1　第6代校長　中神　肇氏　発令（北海道夕張工業高等学校長）

11:28　ガス溶接技能講習指定校となる

昭和４６年

4:1　第7代校長　三浦敏之氏　発令（北海道芦別工業高等学校長）

6:27　ＥＴＡ（職場と教師を結ぶ会）設立　ＥＴＡの項参照

9:10　創立30周年記念式典挙行

昭和４８年

7:20　午後3時15分頃石炭庫内部より出火、一部焼失（石炭庫48㎡のうち内張板屋根野地板屋根トタン合計約113㎡燻焼損害額29万円

昭和４９年

2:12　ガス溶接技能講習指定教習機関指定並びに業務規定の認可（北海道労働基準局長北基収発第112号同113号）

9:1　教頭法政化される

10:15　一条通道道昇格により校地23.48㎡ 用途廃止

昭和５０年

4:2　第8代校長　鈴木憲一氏　発令（北海道釧路工業高等学校長）

9:1　体育文化後援会発足　初代会長　畠山五郎氏選任　体育後援会の項参照

昭和５１年

3:19　超小型電子計算組織（ｵｷﾀｯｸ4400）新設

昭和５２年

5:24　校舎移転改築促進期成会が道教委に陳情

9:2　校舎移転促進期成会が旭川市長・道議会議員同行のうえ校舎移転改築を道教委に陳情

11:24　校地412.86㎡ 昭和木材（株）へ売却

12:10　校舎移転改築促進期成会が道教委に陳情

昭和５３年

4:1　第9代校長　川端　保氏　発令（北海道滝川工業高等学校長）

昭和５４年

7:10　校舎移転改築促進期成会が道及び道教委に陳情

7:20　校舎移転改築特別委員が委嘱され委員会設置

8:18　旭川家具事業協同組合ほか６団体より木材工芸科新設の陳情を受ける

12:4　校舎移転改築予定地の地形測量開始

昭和５５年

1:28　校舎移転改築設計について道工営課、教育庁施設課、設計業者と学校で協議建築＝中原建築設計　設備＝岡設備コンサルタント　土木＝札幌ｴﾝｼﾞﾆｬｰｽﾞ

2:4　校舎移転改築予定地の地盤測量開始

6:28　校舎改築第１期工事着工（荒井建設、田中組、畠山建設、吉宮建設、廣野組5社共同企業体）

昭和５６年

4:1　第10代校長　大村正道氏　発令（北海道滝川工業高等学校長）

5:16　校舎改築第２期工事着工（荒井建設、田中組、畠山建設、吉宮建設、廣野組5社共同企業体）

8:17　校舎改築第１期工事分引き継ぎ受ける

8:20　旭川市1条通り24丁目本校跡地利用（旭川東警察署・旭川方面本部建設予定）の事前調査実施（道管財課・道警本部・方面本部）

8:23　15号台風により校舎屋根約580㎡剥離校内各所水浸し11.10学校用地旭川市西神楽3線5号3番71雑種地7.6033.27㎡北海道教育委員会から引き継ぎ

昭和５７年

4:1　第11代校長　岡田　章氏　発令（北海道帯広工業高等学校長）

4:7　舎改築第2期工事分引き継ぎ受ける

6:25　新校舎へ移転完了

7:23　北海道教育委員会教育長 中村龍一氏視察来校

8:21　旧校舎解体完了（除く体育館）

9:1　北海道教育委員会教育委員長　渡辺敏郎氏視察来校

10:5　屋内体育館、物置、自転車置き場完成

10:17　創立40周年記念式典挙行
10:27　校舎前庭部分完成
11:24　校舎改築外溝第3期工事完成同日付引き継ぎを受ける

昭和５９年

3:3　改築促進期成会・創立50周年記念行事協賛会報告会開催
6:20　北海道教育委員会教育委員長　安藤鉄雄氏・同委員伊坂重孝氏視察

昭和６０年

4:1　第12代校長　久住　盛氏　発令（北海道紋別南高等学校長）
9:30　自転車置き場・バイク置き場新設

昭和６２年

4:1　第13代校長　小泉善治郎氏発令（北海道名寄工業高等学校長）

昭和６４年

1:7　昭和の元号終わる

平成　元年

1:8　平成の元号始まる
6:14　ブルーミントン市教師との交換研修（～21日）

平成　２年

4:1　第14代校長　境田　信氏　発令　（北海道紋別南高等学校長）
7:26　創立50周年記念事業協賛会役員総会

平成　３年

4:1　土木科一間口減
7:26　北北海道野球大会優勝　甲子園出場決定
8:13　野球甲子園大会　鹿児島実業に3：5で惜敗
10:15　野球フェンス完成
10:20　創立50周年記念式典挙行

平成　４年

1:12　旭工ドーム（雨天練習場）完成
4:1　第15代校長　宍戸　寛氏 発令（北海道名寄工業高等学校）
7:20　創立50周年記念事業　記念館（朝日子の館）完成

平成　５年

3:15　校舎笠木取り替え工事完成
6:9　皇太子ご成婚

平成　６年

4:1　第16代校長 尾張秀男氏　発令（北海道美唄工業高等学校長）

平成　７年

3:24　電子機械科学科転換改修工事完成
3:24　電子機械科学科転換改修電気その他工事完成

平成　８年

3:25　家庭科実習室改修工事（調理・被服実習室設置）完成
4:1　第17代校長 吉毛利正也氏 発令（北海道名寄工業高等学校長）

7:23　北北海道野球大会優勝　甲子園出場決定
7:25・26　第47回全道高等学校工業教育研究集会会場校
8:10　野球甲子園大会　ＰＬ学園高校に0：4で惜敗
8:15　語学演習装置（ＬＬ装置）視聴覚教室い設置
12:25　防災対策校舎改造及び屋内体育館改修工事等工事完成（屋内体育館に暖房設備が設置されるー12基）

平成　９年

11:17　平成9年度分グランド補修工事完成
12:5　防災対策校舎改造第2期付属施設整備工事完成

平成１０年

3:24　暖房設備改修工事完成
4:1　電子科（1間口）が情報技術科に転換
9:18　平成10年度グランド補修工事完成
11:27　自転車置き場増設（3基）工事完成

平成１１年

1:17　学科転換（電子科から情報技術科に転換）校舎改修工事完成
4:1　第18代校長 堀田虎雄氏 発令（北海道函館工業高等学校長）

平成１２年

5:12　学習用システムパーソナルコンピューターー41台設置

平成１３年

3:13　校内ＬＡＮ用サーバー購入に関する物品売買契約締結
4:1　電子機械科1間口減
9:30　創立60周年記念事業挙行される

平成１４年

4:1　第19代校長 塩見洋二氏　発令（北海道音威子府高等学校長）
7:26　北北海道野球大会優勝　甲子園出場決定
8:14　野球甲子園大会　福井高校　0：10で惜敗

平成１６年

4:1　第20代校長 笹川政久氏　発令（北海道北見工業高等学校長）
7:2　専門高校における「日本版デュアルシステム」を旭工で実施、3年間の文部科学省で、15都道府県15地域をモデル地域として指定される

平成１７年

7:22　北北海道野球大会　甲子園出場決定
8:9　野球甲子園大会　済美高校に0：6で惜敗

平成１８年

4:1　第21代校長 千葉敏春氏 発令（北海道富良野緑峰高等学校長）

平成２１年

4:1　第22代校長 川﨑博正氏 発令（北海道稚内商工高等学校長）

平成２３年

10:29　創立70周年記念事業挙行される

全日制・定時制

各科の紹介

工業化学科

2003年には、長年工業化学を支えてこられた清水次幸、木場繁之、高島信行の３先生が退職され、その後も先生方の転出入が繰り返さた。中でも諸橋先生が主事として転出されたことは大きな痛手であったが、北海道の教育全体を考えればヤムなしである。

教育面では、従来の方針に加え、「環境」に配慮し「ものづくり」で象徴される実践力のある人材育成を教育目標に掲げてきた点が特徴的である。

さらに、文部科学省が掲げる「若者自立、挑戦プラン」の一環として、インターンシップ、デュアルシステムを先進的に取り入れてきたこともこの間の大きな成果であった。インターンシップは２００２年より生徒全員対象に本格実施、以後先進的な役割を担っている。２年後には文部科学省からデュアルシステムの研究指定を受け、以来、地域企業とのつながりを深めつつある。

2003年には選択科目が導入され、科独自の設定科目として地域産業と化学を導入、さらに地球環境化学を必修に取り入れてきた。

ものづくりコンテストでは、数度の全道優勝をかちとり、２００７年には神保俊彰君が全国大会において第３位入賞の快挙を成し遂げている。

建　築　科

【平成１６年】
文部科学大臣・厚生労働大臣・経済産業大臣・経済財政担当大臣により策定「日本版デュアルシステム」研究指定校となる。

【平成１９年】
研究指定校修了により「旭工版デュアルシステム」名称変更。

毎年のように「日本版・旭工版デュアルシステム」に参加している。

【高校生ものづくり大会】
平成２１年　北海道大会　優良賞
平成２２年　北海道大会　優良賞２名
平成２３年　北海道大会　優秀賞･優良賞

【若年者ものづくり大会】

平成２３年　敢闘賞

土　木　科

土木の教育目標は、「土木に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、現代社会における社会基盤整備の意義や役割を理解させると共に、自然環境と調和のとれた土木技術の諸問題を主体的、合理的に解決し、国土の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てること」です。設備については、材料万能試験機が約４０年ぶりに更新され、鉄筋の引っ張り試験やコンクリート圧縮試験のデータをビジュアル化できるようになりました。実習では新駅舎裏の開発工事現場見学会（写真）や以前から校舎前空き地の雪捨て場であった場所も宅地開発が進み、今年度は２年生全員が現場実習（写真）を経験することができました。建設業協会・地元企業・卒業生の寛大な協力により生徒に経験させられることができました。ご協力感謝申し上げます。

電　気　科

１０年の歩み

平成１３～１５年度卒業生までは進学５０％、就職５０％といった状況でしたが、不景気の影響もあり進学希望者がどんどん減ってゆき、今年度は９５％の生徒が就職希望という状況です。ちなみに昨年度は就職者３７名、進学者３名でした。

ここ近年の状況を踏まえ電気科としては就職試験に耐えれる学力を身につけるため、電気の基本的知識を徹底した指導や資格取得に重点を置き、科内の指導体制を見直しをしてきました。

最近では第２種電気工事士、工事担任者の資格は９割以上の生徒が取得して卒業しています。また、第１種電気工事士も約５０％の生徒が合格し道内でもトップの実績を残しています。

電気で最難関の資格、電気主任技術者もここ４年間で５名合格者を輩出し、全国高校生ランキングのトップ１０に入る学科になりました。

今後も引き続き基礎基本と資格指導には力を入れて指導をしてます。

情報技術科

情報技術の発展に伴い平成１０年に電子科から学科転換し、情報技術科としてスタートしました。

勉強もさることながら資格指導や各種大会、コンテスト等にも積極的に参加し成果をあげています。情報技術科で学んだ多くの者が技術者として社会で活躍しています。

直近５年間の実績

・資格取得　応用情報技術者　　１名
　　基本情報技術者　　12名
　　工事担任者総合種　２名

・高校生ロボット大会
　北海道大会　優勝2回、入賞３回
　全国大会　　出場(H21,20,19,18)

・ものづくり大会（電子回路組立）
　北海道大会　優勝3回、入賞2回
　全国大会　　３位(H21) ２位(H23)
　　出場(H20)

・IT簿記選手権大会(IT部門)
　北海道大会　優勝(H20)
　　入賞(H23,22,21)

電子機械科

１０年間の主な歩み

平成１３年　電子機械科２学級から１学級となる

平成１７年　ＮＣ旋盤端末装置の更新

平成２０年　ものづくりコンテスト、旋盤作業で北海道代表となり、全国大会出場を果たす

平成２１年　平成４年から使用されていたＣＡＤシステムが１７年ぶりに更新され新たに、３次元ＣＡＤシステムや備え付け高解像度液晶プロジェクタも同時に導入された

自動車科

自動車科は昭和３３年に設置され、昭和３５年に実習工場が「自動車分解整備事業」の認証を受け、昭和４１年には自動車整備士実技試験の免除が受けられる「自動車整備士第一種養成施設」に指定され、多数の自動車整備士を養成してきました。七つの科の中では比較的新しい方ですが、今年で設置５３年になり、その専門性を生かして多くの卒業生が自動車関連の企業で活躍しています。

道内で自動車科のある高等学校は、本校を含め北海道尚志学園高等学校、旭川実業高等学校の３校となっており、公立では唯一となりました。

最近の進路状況は、就職・進学含めて約８割が自動車関連の道に進んでいます。自動車整備士はもとより、自動車の研究開発の道を希望する生徒が多くなったことも最近の傾向です。

ここ数年で長年自動車科に勤務された先生方が退職され、自動車科の職員の顔ぶれも大きく変わりました。しかし、職員が自動車について積極的に学び、生徒に還元していく姿勢は今も変わらず続けられています。これからも社会の変化や産業界から求められる知識・技術の水準を視野に入れながら、将来のスペシャリストとして必要とされる基礎・基本に重点を置き、時代に即応した自動車教育の実践に努めたいと思っています。

定時制　電気科

この十年間は少子化の影響により入学者が減少していく中で多様な生徒を受け入れ、「ものづくり」や「資格取得」をとおし、少人数でのきめ細かい指導に取り組んできました.

資格取得については，生徒一人ひとりの希望に応じて積極的に指導しています．電気工事士をはじめ第三種電気主任技術者，工事担任者，消防設備士，各種の検定試験など，入学直後からそれぞれの学習意欲や生活環境に応じて，定時制生活の４年間を見通した計画的な指導を行っています．特に，平成18年度には第三種電気主任技術者に1名合格したほか，一年生の女子生徒２名が第二種電気工事士に合格し，たいへん注目されました。また、社会人入学された方も第二種・第一種と続けて合格するなど少人数指導の成果を上げています．最近では約半数の生徒が第二種・第一種電気工事士を取得しています。

一方，地域に開かれた学校づくりの取り組みとして，旭川市科学館サイパルでの出前授業「たのしい電子工作教室」、学校開放講座「第二種電気工事士技能試験講座」を実施してきました。他にも、産業教育フェアやものづくり博覧会で「電子工作体験コーナー」を出展し地域の方々の好評を得ています。

定時制　建築科

本校定時制建築科は、昭和２３年に設置され、現在までに１４８１名の卒業生を送り出しており、地域の技術者として建築業界で活躍されているところです。

本科は「建築に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、主体的に行動でき、信頼される技術者の育成を図る」を教育目標に、建築に必要な基本的な知識や技術を身につけるよう指導しています。

最近では、旭川エスタや上川振興局での建築科全定合同による生徒の作品展示会の実施や、ボランティア活動の一環として、地域図書館や育児院などへの作品寄贈など、積極的に地域に開かれた学校づくりに取り組んでいます。

また、希望する進路に対応できるよう、様々な資格取得の指導に力を入れています。多くの生徒が働きながら学ぶ姿勢を忘れず、遅い時間まで資格取得に取り組むことにより、高い合格率と同時に高い就職率につながっています。

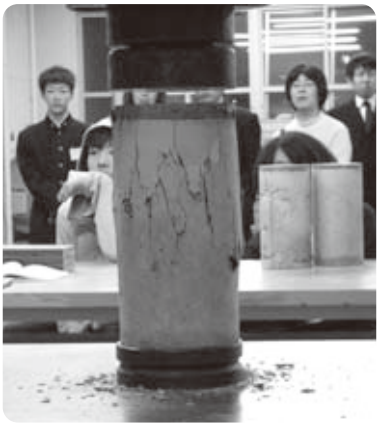
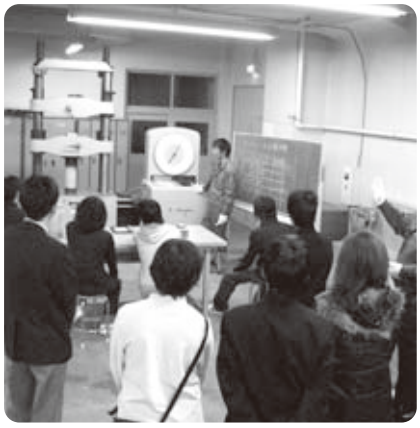
近年では、約３割の生徒が大学や専門学校に進学するなど、さらに上の目標を持って授業に取り組む姿も多く見られるようになりました。

定時制　土木科

学科の目標
土木に関する基礎的・基本的な知識と技術を
習得させ、健全な心身を育み創造性豊かな
工業人の育成を図る。

現在、本校定時制土木科から送り出された卒業生は１２６７名にも及び、地域の技術者として建設業界で活躍しているところです。

定時制土木科においては、基本的知識や技術の定着を図りながら、各種資格取得に取り組む指導を行っています。この中で生徒の学習意欲の向上に努め、授業等を受ける基本的な姿勢、技術者として必要な礼儀・身だしなみを身に付けさせる指導に重点をおいています。

近年、定時制入学者の入学目的には、以前の定時制生徒と比べ大きな変化が見られます。土木科においても同様な傾向が見られ、集団生活が苦手な生徒や中学時代に欠席の多い生徒など、多くの課題を抱えた入学生に、よりきめ細かい指導を大切にしているところです。これらの指導を通して、入学後は休まずに登校できるようになるなど、大きな変化と成長が見られ、４年後は立派に卒業していくケースが多々あり、定時制の役割は益々重要になってきているところです。
今後においても、このような特色ある教育を実践し、地域社会の期待に応え、地域での役割を担っていきたいと考えています。

定時制実習風景